

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	令和5年11月29日
タイトル	スイゲンゼニタナゴ生育調査2023！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

令和5年11月11日（土）、福山市内に流れる河川においてスイゲンゼニタナゴ生息調査が実施されましたので取材しました。

スイゲンゼニタナゴは、種の保存法で「国内希少野生動植物種」に指定され許可のないまま捕獲・飼育・販売・譲渡・放流することは厳しく禁止されている貴重な魚です。

水土里ネット福山は、福山市で発足した「芦田川水系スイゲンゼニタナゴ保全地域協議会」に水利権者として参加し、調査など様々な活動に協力しています。

保全活動の一環として、芦田川水系でスイゲンゼニタナゴや産卵母貝となるイシガイなどの生育調査をしています。

芦田川水系スイゲンゼニタナゴ保全地域協議会のメンバーや水土里ネット福山の渡辺美智夫総代をはじめ地域に在住の組合員も参加し、自前の胴長や福山市環境保全課が準備して下さった胴長に着替えて川へ入り上流から3地点に分かれ、それぞれ調査をしました。



足元が不安定で水の流れに足をすくわれそうになります！

初めて調査に参加した地域の方は、「子どもの頃に戻ったみたいなお。」「この辺りは砂になってきれいじゃなかったんよ。」「魚がなんぼうでもおったんよ。」とご自身が子どもの頃の様子を教えてくださいました。

川は土砂が堆積し、草が覆い茂っていました。水が流れている際などを網ですくって魚などを傷つけないように採取しバケツに入れて、最後に全部を集めて種類別に調査しました。

1匹ずつ写真を撮り、これは何という魚と説明していただきました。全体的に魚などの生き物が少なく、今年は降雨量が少なく川の水位が低くて藻が多いため水の中の酸素量が不足しているのではないかなど意見交換しました。

スイゲンゼニタナゴは確認できませんでしたが、タナゴの仲間の魚や産卵母貝である二枚貝、エビなどの生き物を確認しました。確認後、速やかに川へ返しました。

また、外来種のザリガニやブルーギルなどが多数確認されたため駆除されました。

今回の調査では、ほとんどの場所で水位が足首より少し上のあたりでしたが、急に深くなっていたところで首まで水に浸かってしまうという事が起こりました。幸い大事にいたりませんでした。川の怖さを痛感し、川は危険と隣り合わせということをもっと多くの人に伝える必要を感じました。



ブルーギルなどの外来種の駆除は「同じ生き物なのにかわいそうだ。」という意見があります。

しかし在来種の絶滅に繋がるため駆除しなければなりません。ブルーギルなど動物園で餌にできないかと意見がでましたが、寄生虫がいるかもしれないため迂闊に与えることができないとお聞きし、難しい問題だと思いました。

調査を見かけて近所の方が声をかけてこられました。バケツに入った魚やエビを見て「道路から見るだけではこんなに生き物がいるとは分からなかった。」と驚いておられました。

今回の調査では川に生息する生き物に触れ、自然の豊かさを感じると同時に川の危険性を実感しました。

水土里ネット福山は、ふるさとの生きた財産である「スイゲンゼニタナゴ」が将来にわたって芦田川水系に健全かつ安定的に生息できるよう、水環境の保全と安定した農業用水の取水配水に努めるとともに農業用水の果たす社会的役割の重要性を発信し、21世紀土地改良区創造運動を展開してまいります。